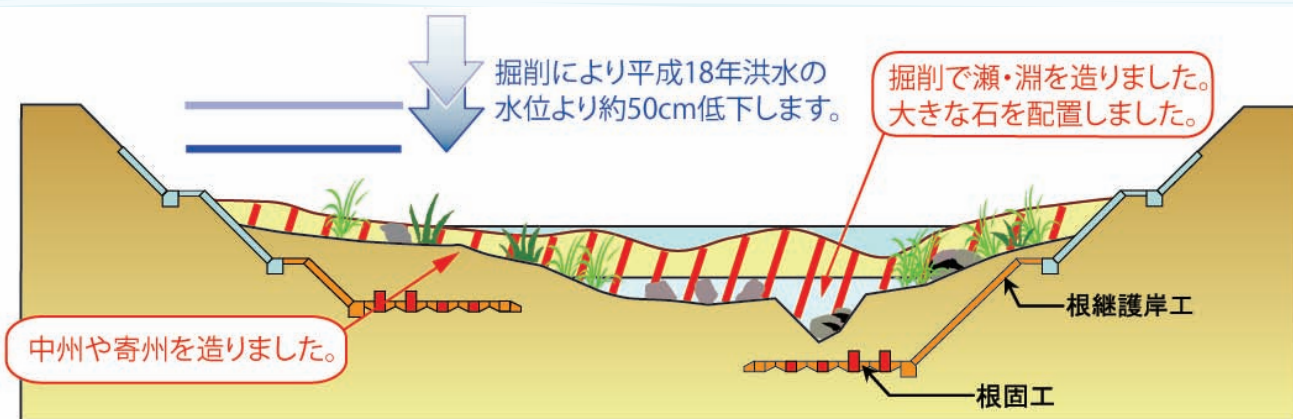


多自然川づくりの取り組み

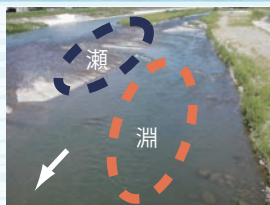
【自然豊かな川をめざして工事を行いました】 ※平成 22 年度に全工事を完了しています。



根継護岸工・根固工：洪水時に堤防や河床を守るための、玉石張コンクリート及びコンクリートブロックによる補強です。
掘削した土砂は、公共用地の造成等に有効活用しました。

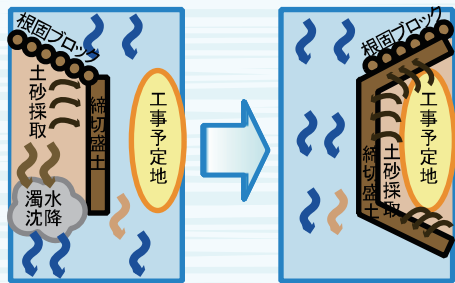
◆瀬・淵への配慮

瀬や淵の形成を見越した施工をしました。水生生物のすみ場となります。



◆濁水対策

土砂採取を行う場所の上流に根固ブロックを置き、土砂が流れ出さないようにし、近くから土砂を集めることとするなど、手順を工夫しました。



◆アユの生息場所の創出

川の中に大石を置くことで流れに変化をつけ、アユをはじめとした魚類のすみ場を創出しました。また、石の表面はアユの餌（藻類）の生育環境となります。



◆希少な植物（ミクリ）の保全

ミクリとは水辺に生える植物で、絶滅が心配されています。工事中は工事現場から一時避難させました。



平成 24 年度の植物調査では、上牧護岸と福島護岸でミクリ属の一種を確認しました。

その他、水草を中心とした植物重要種が 4 調査地点で確認されています。

今後も川の状態を見守り、少しでもよい方法を探して、「いい川づくり」を目指します。

豊かな水辺づくり・河川事業のことなら



笑顔、きらきら、天竜川。

天竜川上流河川事務所

〒 399-4114 駒ヶ根市上穂南 7-10
tel 0265-81-6415 fax 0265-81-6420
最新の情報を知りたい時は…
URL <http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/>
E-mail tenjyo@cbr.mlit.go.jp

作成 平成25年3月

天竜川激特事業の多自然川づくり

平成24年度モニタリング調査結果

はじめに

天竜川上流河川事務所では、平成 18 年 7 月の豪雨災害を受け、再度の災害防止を図るため辰野町から伊那市の天竜川において、激甚災害対策特別緊急事業（通称：激特事業）を行ってきました。激特事業では、多自然川づくりアドバイザーからの指導・助言や地域からの要望を工事に反映し、伊那谷名物のザザムシやアユに代表される良好な河川の自然環境に配慮しつつ工事を実施し、平成 22 年度に完了しました。

工事後、当該事業が環境に与える影響を把握するため、事業区間についてモニタリング調査を実施しています。

平成 24 年度の自然環境モニタリング調査結果をお知らせします。

調査の内容

- ・アユの生息状況（6 月～8 月にかけて月 1 回）
- ・ザザムシの生息状況（12 月と 2 月に各 1 回）
- ・植物の生育状況（6 月・8 月・10 月に各 1 回）

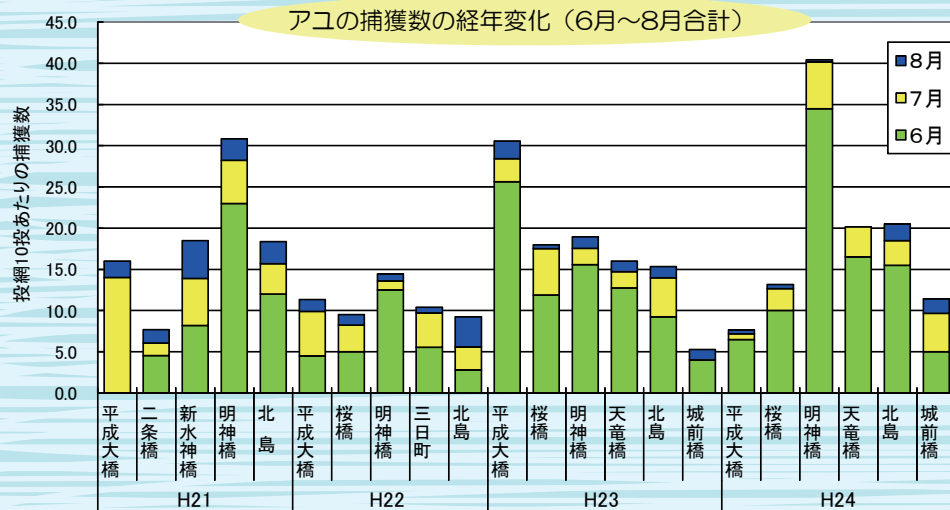
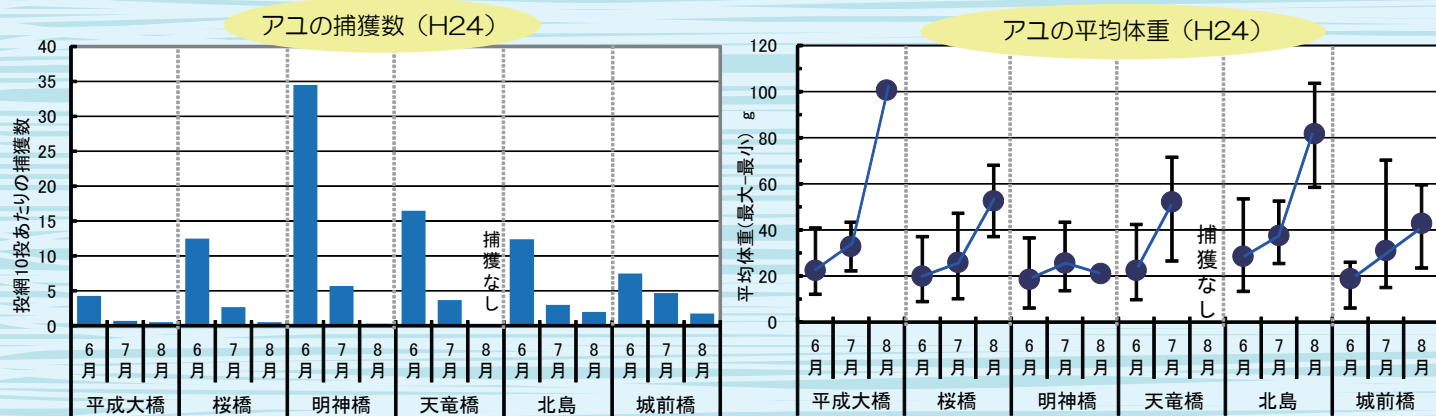


調査地点



アユ調査の結果

- ・平成 24 年度のアユの捕獲数は、全ての地点においてアユ漁の解禁直前の 6 月に多く、特に明神橋が突出していました。
- ・天竜川漁協によると、平成 24 年度のアユの釣果は、明神橋～天竜橋で 7 月まで良い状況でしたが、7 月下旬から釣れなくなったとのことでした。また「桜橋」から「城前橋」は、「アユが溜まれる淵が無いので十分に成長できていないのでは」との指摘がありました。
- ・アユの平均体重は、6 月、7 月調査時には 40g に満たない小さなアユが多い状況でしたが、8 月末には体重、体長ともに成長しました。
- ・平成 24 年度のアユの捕獲数は、平成 21 年度～ 23 年度と比べ、平成大橋・桜橋で少なく、明神橋～城前橋では最多となりました。



【その他魚類の確認状況】

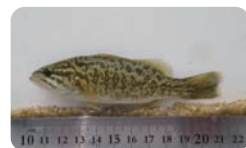
アユの調査時に、ウグイやオイカワ、カマツカ等 17 種の魚類を確認しました。

特定外来生物に指定されているコクチバスは全地点で確認され、今後の生息状況に注意が必要です。

ウグイ

オイカワ

コクチバス



※特定外来生物とは、もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系などに被害をおよぼすものとして法律で指定された生物のことです。

【アユの餌の様子】

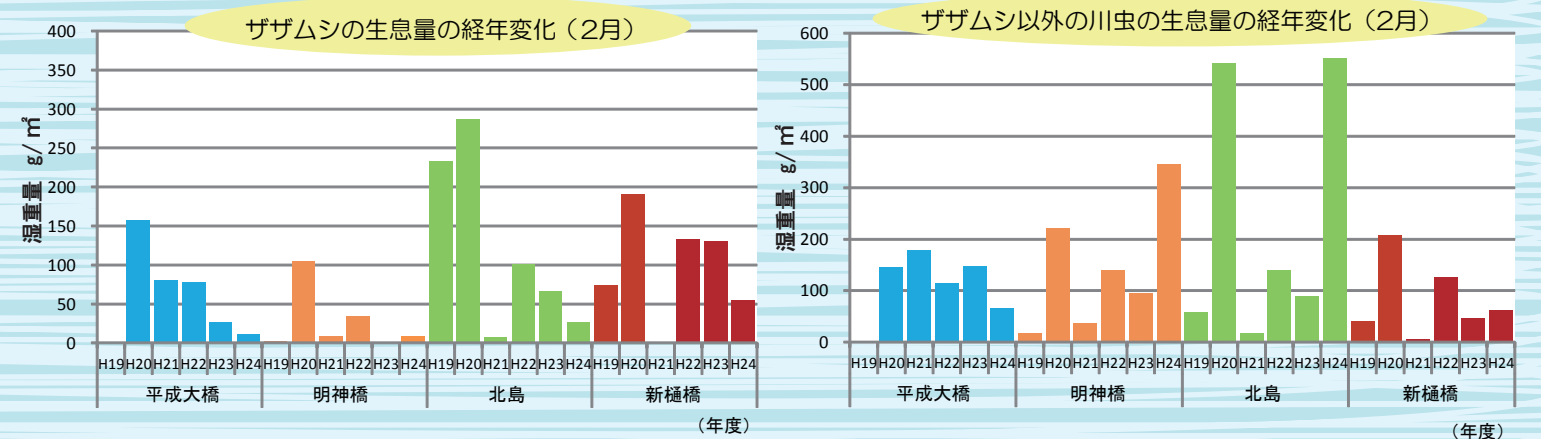
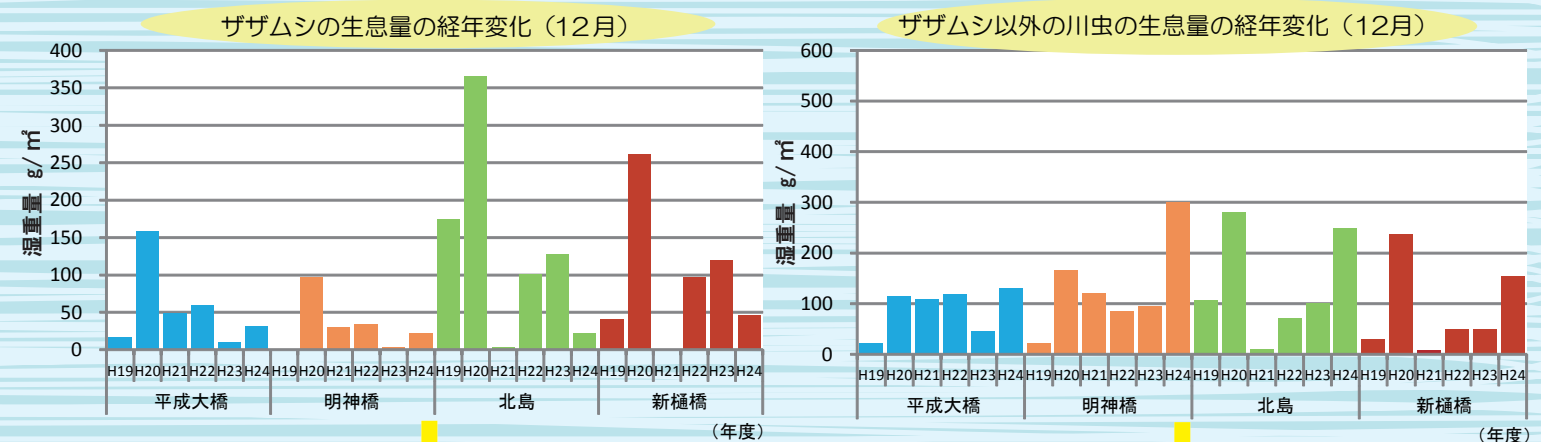
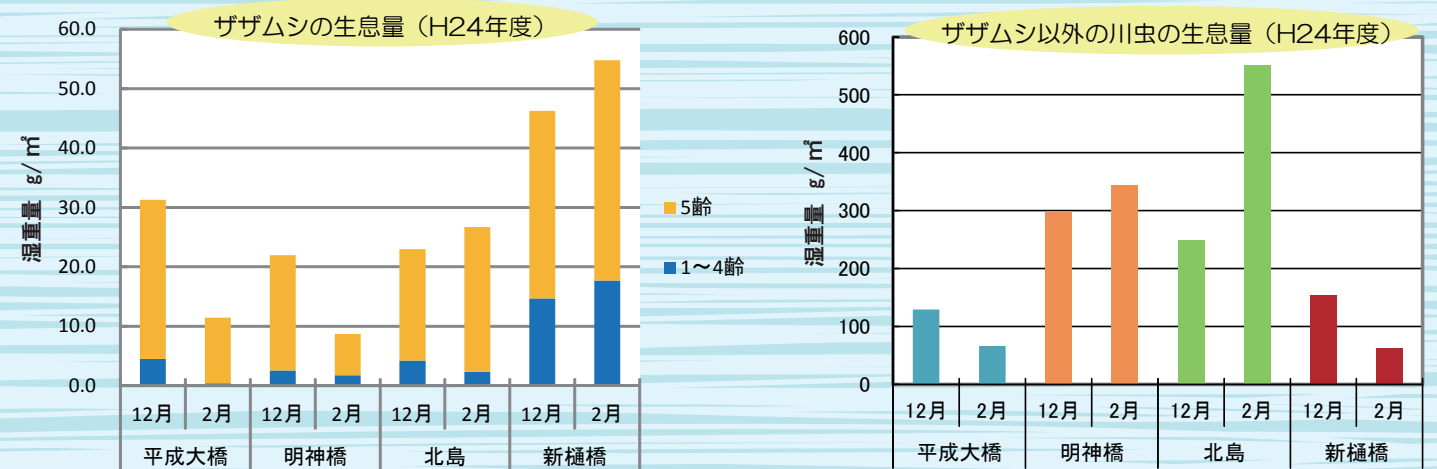
アユは、石の表面に生える藻類（コケ、アカ）を餌としています。藻類は川が増水して濁りが濃いと、量が少なくなります。

付着藻類は平成 24 年度、初夏に少なく 7 月 8 月に増加が見られました。



ザザムシ(ヒゲナガカワトビケラ)調査の結果

- ・平成 24 年度のザザムシの生息量は、場所により異なり、新樋橋で多く、平成大橋・明神橋・北島で少ない状況でした。
- ・ザザムシの生息量を平成 23 年度と比較すると、明神橋で増加しているものの、北島や新樋橋では 50%未満となりました。
- ・平成 24 年度のザザムシ以外の川虫の生息量は、北島（特に 2 月）・明神橋で多く、平成大橋・新樋橋で少ない状況でした。
- ・平成 24 年度はザザムシの生息量が少なく、ザザムシ以外の川虫の生息量が多くなりました。引き続き調査を行い、生息状況及び傾向の把握を行っていきます。



【湿重量 g/㎡】

1㎡あたりにすんでいるザザムシの重さ(g)。水分を含んだ状態の重量を示す。川虫の生息量を表す時によく使用されます。